

北アナトリア断層のトレンチ発掘調査



1. 調査地は扇状地と丘陵にはさまれた湿地で、牛や羊の放牧地となっている。トレンチは断層を横切って長さ12m、幅10m、深さ3mの規模で掘削された。

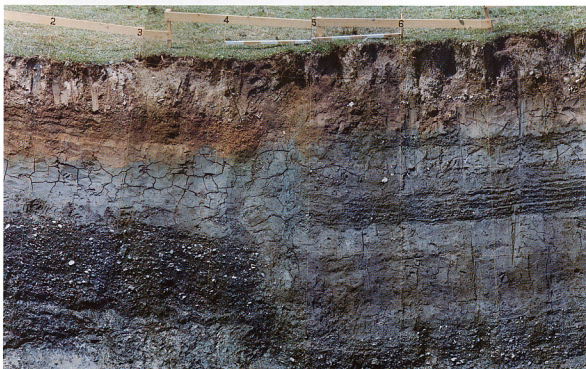
トルコ北部を縦断する北アナトリア断層においてトレンチ発掘調査を行った。調査地点はアンカラ北方約100kmの1944年ボルネグレデ地震断層上である。断層はトレンチ両壁面に明瞭に現れた。トレンチからは人工遺物が出土したほか、多くの木材や貝化石が産出した。壁面に現れた断層露頭を詳細に観察し、貝化石の ^{14}C 年代を測定した結果、この断層は過去約2000年間に最大8回の活動歴をもつことが明らかになった。詳しくは本誌60-66頁を参照されたい。
(地質部 吉岡敏和・環境地質部 奥村晃史・トルコ鉱物資源調査開発庁 İsmail KUŞÇU)



2. トレンチ調査地点を北西から望む。断層は写真中央をほぼ東西に走る。手前の白っぽいところは山地からの扇状地。後方は基盤岩からなる丘陵である。中央の車の左がトレンチ。



3. (左)トレンチの全景、トレンチの壁面は約45°の傾斜をもたせた。両壁面とも中央やや手前で地層が食い違っているのがわかる。下部の機層に着目すると手前側が上昇したように見えるが、実際は向こう側が右方に移動する右横ずれ運動をしている。



4. (下)トレンチ西側壁面、断層帯はグリッドNo.4-5に見られる。断層面は東側に比べ明瞭ではないが、表土の直下の地植物までを変位させている。断層帯では地層の引きずり変形や液状化現象も認められ、東側より流動的な変形をしたと考えられる。上部の黄褐色部は酸化帯。



5. トレンチ下部のシルト層から産出した巻貝化石。巻貝はいずれも湿地もしくは湖に生息するものであり、 ^{14}C 年代測定の結果、紀元前20±80年の年代が得られた。



6. トレンチ壁面における木材の産出状況。腐植質の粘土・シルト層からは大量の木材片・球果等が産出した。木材は新鮮でほとんど炭化していない。